


砂丘

発行：独立行政法人 国立病院機構

 鳥取医療センター

発行責任者：柏木 徹

理念

1. 人類愛に基づく、質の高い医療を提供する。
2. 患者本位の医療体制を確立し、十分な説明と同意の下に、自由意志を尊重し、人としての尊厳を守る。
3. あらゆる情報の公開に努め、医療人としての自己研鑽に努める。

インフルエンザの季節になりました

インフルエンザを知ろう！（INFECTION CONTROL より）

病原 体：インフルエンザウイルス

特 徴：冬季に流行する急性気道感染症、トリを本来の宿主とする人獣共通感染症です。

潜伏 期間：1～3日。

感染可能期間：発症から解熱後数日間。

症 状：悪寒、発熱、筋肉痛、関節痛、頭痛、などが突然現われ、軽度の咳・鼻汁などの上気道炎症状を伴い、数日で軽快します。

いわゆる「かぜ」に比べて全身症状が強いのが特徴です。

一般的にはB型インフルエンザはA型に比べて症状が軽い傾向があります。

合 併 症：肺炎、脳症、中耳炎等があります。

検 査：診断には鼻腔および咽頭ぬぐい液などを用いた抗原検査キットを使用します。

治 療：ノイラミニダーゼ阻害薬（タミフル・リレンザ）です。

法律上の取扱：感染症法では5類の定点把握疾患となっており、全国の約5000の医療機関が届け出を行う学校保健法では第二種学校伝染病で、解熱後2日までは出席停止となります。

飛沫感染予防策が必要ですが、環境表面についた気道分泌物にも注意してください。



インフルエンザ予防対策のお知らせ

- 予防接種はすみしましたか？
- うがい・手洗いをまめにしましょう。
- 十分な睡眠、栄養をとりましょう。
- 咳の出る方はマスクをつけましょう。
- 風邪気味の方はできるだけ外出をご遠慮ください。





●「てんぐ祭」●



療育指導室 児童指導員 下茶谷晃・高岡史恵

10月4日に重心病棟で「てんぐ祭」を開催しました（「祭」の名称については、統合後初めてということもあり、職員や保護者の方に馴染みのある名前が良いと、十数年前に行っていた祭の名前にしました）。

当日は天候にも恵まれ、保護者、ボランティアなど大勢の方に来て頂きました。祭りは、10時30分に開始し、「カラオケ喫茶」「踊り喫茶」「ポーリング、魚つり」「スヌーズレン」「作品展示」「映画会」、保護者会や学校のPTAによる「バザー」と、たくさんのコーナーを用意しました。

5、6訓練棟の「踊り喫茶」では、午前“しゃんしゃん傘踊り”を行いました。踊りには職員だけでなく、保護者、ボランティア、精神科の患者様も飛び入りで参加して頂きました。見ている患者様も手拍子をしたり体を揺らしたりと楽しんでおられました。午後は学校の先生が“ファンタジー”を行い、こちらも多く参加がありました。7、8訓練棟での「カラオケ喫茶」では、たこ焼きや綿菓子、ジュースを頂き、カラオケで自分の好きな歌を熱唱し、大変盛り上がっていました。また、「映画会」では、午前“モーニング娘。”のライブ、午後石原裕次郎の“明日は明日の風が吹く”を上映し、石原裕次郎の大ファンの患者様もおり、熱心に見ておられました。その他、「スヌーズレン」「作品展示」「ポーリング、魚つり」のコーナーにも重心病棟、精神科の患者様など大勢の参加があり、とても喜んで頂きました。

さらに、この祭りのコーナーではないですが、多目的ホールで精神科病棟主催のカラオケ大会があり、重心病棟の患者様も参加させて頂きました。とても温かく迎え入れて頂き、患者様、職員共々楽しく過ごすことが出来ました。

今回、重心病棟の各部署と連携をとりながら計画、準備を行い、また、42名ものボランティアの協力、精神科の皆様の参加と、とても実りある祭りが出来、良き交流の場となりました。今後は、病院内外との交流をより深め、開かれた病院づくりを目指していき、重心病棟だけではなく、病院全体の祭りも行っていきたいと思えます。



● ボランティアの皆様いつもありがとうございます。 ●

重度心身障害児（者）病棟 看護師長 内山 繁 嘉

鳥取医療センターでは、地域の皆様からのボランティア支援を定期的にしていただいております。

私たち重度心身障害児（者）病棟では、患者様のご家族をはじめ、地域の企業、宗教団体など多くの方々定期的に支援を受けております。患者様が普段使用する車椅子やベッドの清掃、院内で洗濯された衣服の整理整頓、入浴及び食事介助の支援、病棟周りの草刈清掃などの環境整備、その他にも衣服の補修や患者様たちが利用する縫製品などの手作りオリジナル品の作成をしていただいております。10月には院内で行われたセンター祭りで、患者様とボランティアの皆様がペアになり、一緒に参加することもいただきました。患者様をはじめ、ボランティアの皆様にも楽しんでいただきました。

私たち看護部門でも、患者様たちが安全・安楽に自立ができるように看護計画などを立案し、患者様のサポートをさせていただいております。しかし、地域ボランティアの皆様が支援して下さることで、患者様が

心の安らぎを得ることができるし、今以上に入院療養生活に専念できることと思います。ボランティアの皆様、誠にありがとうございます。今後ともボランティア支援をとおして、鳥取医療センターを理解していただき、私たちも地域の皆様に密着した医療、看護、福祉の充実に貢献ができるように努力いたします。

なお、ボランティアのお申し込みやボランティア案内パンフレットの請求など、直接、鳥取医療センターに来院されるか、又はお電話でのお申し込みもできますのでよろしくお願いいたします。



● 平成18年度中国四国ブロック管内治験研修会に参加して ●

臨床検査技師長 岡本 敏

10月27日（金）・28日（土）の2日間、呉医療センターにて平成18年度中国四国ブロック管内治験研修会が開催され、当院から私が受講してきました。今回の研修は、独立行政法人国立病院機構に於ける治験推進のために、治験経験の少ない職員を対象に実際の治験実務に関する知識の修得及びスキルアップを目的としたもので、中国四国地方の薬剤科をはじめ看護課、検査科、事務職の職員37名が受講しました。

27日は治験依頼者の立場からイービーセス株式会社マネージャーの加川講師、施設内で治験に携わる立場から“治験事務局業務”を呉医療センター鶴池治験主任、“CRC業務”を南岡山医療センター大村看護師、“各部門業務”を東広島医療センター臨床検査科本田技師と呉医療センター診療放射線科嶋野技師の各講師の皆さんより講義を受けた後、質疑応答を行い終了しました。

28日は“機構本部の治験に対する施設支援体制について”国立病院機構本部蟻川治験専門職の講義の後、5つの班に別れて“質の高い治験を目指して”と題し

実施に於ける問題点についてグループワークを行いその内容について班別に検討内容発表し、最後に全体討論を行い研修会の全ての日程を終了しました。

今回の研修は、先に述べたように一度も治験に携わったことのない者を始め経験の少ない者が多く、受講者自ら“治験”についての認識の必要を痛感し、グループワークでも治験についてのPRや人材育成・業務体制の確立の必要を中心に討論がなされました。

当院での治験は、鳥取病院から継続して行った1例と10月から始まった1例と多くはないが、検査科の治験業務に関する体制の更なる構築と国立病院機構の運営方針として目指す3つの柱の1つ“臨床研究事業”として、今後より一層の推進の必要性を感じた研修でした。

尚、当院の治験に関してはNHU鳥取医療センターのホームページ各部門案内の臨床研究部に、国立病院の治験に関しては独立行政法人国立病院機構のホームページの治験推進室に各々アクセスをしてみたい。

外来診療科担当医表

独立行政法人国立病院機構鳥取医療センター

平成18年11月1日現在

			月	火	水	木	金
内科			松本	岩田	松本	塩	松本
内科(検査)				小西		小西	
精神科	初診	診察室6	坂本	土井	松島	林	高田
		診察室7	池成	池成	坂本	土井/岡田	林
	再診	診察室1	高田	松島	土井	高田	土井
		診察室2	松島	坂本	川口	助川	坂本
		診察室3	池成	林	林	池成	池成
		診察室7					岡田
	診察室8	岩田	岩田	岩田	岩田	岩田	
神経内科		1	下田	岡田	井上	金藤	土居
		2	後藤	下田	金藤	土居	井上
小児科		1	中野	小松	赤星	中野	赤星
専門外来	睡眠外来	精神科5	坂本		高田		高田
	神経内科(予約制)		失語症 パーキンソン病	高次脳機能障害	失語症 パーキンソン病	嚥下障害 失語症	失語症 パーキンソン病
			下田	下田	井上	金藤	下田
		小児科(予約制)	発達外来 小枝	発達外来 赤星	発達外来 中野 予防接種 15:00~16:00		

- ◆所在地 〒689-0203 鳥取県鳥取市三津876番地
- ◆電話 0857-59-1111
- ◆診療受付時間 午前8時30分～午前11時30分
- ◆専門外来診療時間 午後1時30分～午後3時00分(睡眠外来の受付時間は午前中です)
- ◆休診日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始、ただし、急患の方はこの限りではありません。
- ◆ホームページ <http://www.hosp.go.jp/~nisorit/>

インフルエンザワクチン株の選定は？

インフルエンザワクチンに含まれるウイルス株は、世界中のデータと専門家の意見を元に毎年、WHOが推奨株を決定します。日本ではそれらをもとにシーズン前の抗体保有状況や世界各国の流行状況を考慮し、専門家会議の結果を受けて厚生労働省によって決定されます。現在のワクチンにはA型2種類及びB型1種類が含まれており、いずれの型にも効果があります。ワクチンは流行株を予測して生産されますが、流行株は毎年変わるため実際の流行株と異なった場合には効果は減少します。

平成18年度のインフルエンザHAワクチン製造株については、Aソ連型株：A/ニューカレドニア/20/99(H1N1)及びA/広島/52/2005(H3N2)、B型株：B/マレーシア/2506/2004が決定されました。

薬剤科 梶山 宜之

